

序

内閣総理大臣 鈴木善幸

大平正芳先生が、現職総理大臣として、その大任に殉じられてから満一年、先生の足跡は時と共に光彩を放ち、敬慕の念は、いよいよ深まるばかりであります。

先生は、独立達成後間もない昭和二十七年、政界に志し、池田内閣の官房長官をはじめ外務大臣、通産大臣、大蔵大臣、自由民主党幹事長等、政府与党の要職を歴任して才幹を振われました。

先生は、時流を洞察して遠く慮り、問題の真相を見極めて深く謀り、新しい日本建設の道を拓かれたのであります。寛容と忍耐を演出して国論の激突を治め、国民の活力を動員して経済発展の軌道を敷き、流動と混迷の国際社会に臨んで、よくその調和を実現し、日中の国交を回復して、両国民の間に永きにわたる友好の絆を結ばれました。

変革の嵐が世界を吹き荒れ、時代の潮流が曲り角に達した昭和五十三年、衆望を担って内閣総理大臣の印綬を帯びるや、内政外交の重責を双肩に負い、激動の終熄に肝胆を砕かれました。東京サミットを主宰して、先進国間にわが国の地位を重からしめ、変転極まりない国際情勢に平和と繁栄の秩序を求めて東奔西走されたのであります。

しかるに、歴史の急湍は日に日に険しく、真摯な先生に、身心の耐えうる限度を越えた克己と緊張を強い、遂に、昭和五十五年六月十二日、鴻業半ばにして忽然と逝かれたのであります。

二十八年にわたる先生の政治生活は、一億国民の繁栄と政局の安定を願う至純の精神によって貫かれておりました。この間、私は、同志としてあい謀り、手を携え、終始先生と苦楽を重ねてきました。先生の倂は、辛酸を嘗めた幾多の難局と共に昨日のこのようにありありと思ひ起すことができます。そして、先生は、身をもって政局の安定を購われました。先生の苦衷を思うとき、誠に万感胸に迫るのを禁じえませぬ。

万巻の書を読んで理想を求め、信義を重んじて馥郁とした友情を育み、人生を愛して永遠の今に生きた先生の人生は、清冽であり、芳醇であり、崇高でありました。

いま、先生の遺徳を欽慕する人々の手によって、先生の人生と事蹟を永遠に残すべく回想録が出版されるにあたり、この書が万人の胸を打つものであることを信じて疑いません。茲に、生前、先生から賜った数々の友誼に感謝し、ありし日の倂を偲びつつ序に代えさせていただきます。